

## 新たな車両調達方針に関するオンライン説明会 議事概要

1. 日時 2021年7月15日 17時00分～18時10分
2. 開催方法 ZOOM ウェビナーによる開催（日英同時通訳）
3. 出席者
  - (1) 参加企業  
国内外の鉄道関連製造事業者10社（1社欠席）、合計23名
  - (2) 説明者  
北海道旅客鉄道(株) 取締役副社長 綿貫泰之  
執行役員 財務部長 木元 剛  
鉄道事業本部 車両部長 鬼頭知彰
  - (3) 運営（委託）  
(株)三菱総合研究所 石原嘉一（司会）
4. アジェンダ

時間	議題	説明者
17:00-17:05	開催の挨拶	綿貫
17:05-17:35	資材調達に関する基本方針について	綿貫
	車両調達の概要について 札幌圏通勤形交流電車の次期調達を例に	鬼頭
	車両調達の手続について 一般競争入札・総合評価落札方式による調達	木元
17:35-18:10	質疑応答・意見交換	鬼頭/木元

### 5. 議事概要

当社における新たな車両調達方針として、「資材調達に関する基本方針について」「車両調達の概要について」「車両調達の手続について」を説明した。

### 6. 質疑応答

当社からの説明後、参加企業様より以下の質問を頂戴した。寄せられた質疑とそれに対する回答は以下のとおり（英語での質問も日本語にて表記）。

#### <説明会に関する質問>

- Q. 本日のプレゼン資料はもらえるか。
  - ウェビナー終了後のアンケートに回答していただければ送付する。

<全般的な資材調達方針について>

- Q. Covid 19 の影響は、どのように受け止めているか。
- 鉄道運輸収入の減収により、経営が一層厳しくなることから、資材調達に際しては安全を最優先に、より適正な価格を追求したいと考えている。
- Q. 御社の掲げる「安全」の内容を具体的に教えてほしい。
- 基本的な大方針としては、お客様の命を守ること、社員の命を守ることと考えている。それを実現する具体的な内容としては、技術仕様書に記載をする安全性要求事項、法令、各規格を満たすことをもって、安全の担保をとりたいと考えている。
- Q. 車両とレール以外は、一般競争入札を行わないのか。
- WTO 政府調達協定および EU 経済連携協定の基準額を超える物品について、限定入札の要件を満たさない場合には、一般競争入札により調達を実施する。
- Q. 入札書類や技術仕様書は英語版も用意されるか。
- 協定に則り、サマリーのみを英訳する。
- Q. 公募情報について、ウェブサイトのどこを見ればよいか。
- 当社 HP の「企業」>「法人向け情報」>「資材調達情報」にて確認いただきたい。

<車両調達の方針について>

- Q. 車両の入札時に改めて説明会は開催されるか。
- 説明会の開催は予定していない。
- Q. 車両一括方式の対象は機械扱いの保守用車も対象か。
- 保守用車については検討中である。
- Q. 車両の購入にあたり、貴社よりご支給もしくは指定となる物品例を教えてください。
- ATS-DN 車上装置・運転支援装置・制輪子の 3 点となる予定。
- Q. 今後オーバーホールの外注化の考えはあるか。
- 基本的には JR 北海道本体で行っており、一部は外注化を検討するが、全てを外注化することは現時点では考えていない。
- Q. 今後の車両調達の調達見通しを教えてください。
- 社会情勢の変化等を踏まえて調達計画を検討しているため、決定次第、当社 HP にて公表する。
- Q. 詳細仕様の提示、および詳細仕様に対しての確認・協議の方法を知りたい。
- 今回ご説明した札幌圏通勤形交流電車の場合、詳細仕様は、1 次審査通過後、秘密保持誓約書を提出していただいた企業様に提示する。確認や協議の方法については、2 次審査以降に入札手続等に関する質問を電子メールにて受付する期間を設ける予定である。詳しくは入札図書等にて確認いただきたい。

<札幌圏通勤形交流電車について>

- Q. 札幌圏通勤形交流電車の仕様書はすでに固まっているか。また、新規企業が参入する余地はあるか。
- 新規企業様が参入いただく余地はある。仕様書は概ね固まっており、今後予定している意見招請を経て決定する。総合評価落札方式にて、仕様書の要件を満

たしているか、適正価格・製品サポート等であるかを公平適切に評価して落札者を決定したい。

Q. 新造する車両は、既存の 721 系又は他形式車両と併結可能とする仕様か。それとも、既存車との併結はしない仕様か。

➤ 今回予定している車両は併結しない予定。詳しくは、入札図書等にて確認いただきたい。

#### <入札手続について>

Q. サプライヤの事前登録制度はなぜないのか。メーカーにとっては都度審査する方が手間となる。

➤ 現状では政府調達の対象となる物品が限定的であるため、当社として、事前登録制度を実施する必要性が乏しいと考えている。

Q. 審査対象は車両メーカー様のみか。

➤ 車両一括方式での調達を検討しているため、対象は車両メーカーを想定している。

Q. 何故、入札公告の時点で技術仕様書を配布しないのか。

➤ 製造能力の有無について当社が承知していない事業者様に対して、当社の技術情報を記載した技術仕様書の全てを交付することを避けたい。まずは意見招請にて、技術仕様書の概要版を配布する予定。

Q. 入札書として提出した金額が落札価格だとして、落札後のさらなる価格交渉はないとの理解でよいか。

➤ 基本的には、その後も価格の協議をさせていただきたい。

Q. 守秘義務契約は車両メーカーと JR 北海道間のみの締結か。

➤ 車両メーカー様と我々の間で締結することを想定している。

Q. アフターケア体制として、北海道内に支店等の設置が必要か。

➤ 北海道内に支店の設置は必須とは考えていないが、不具合・故障が発生した際に速やかに対応できる体制を求めている。詳しくは入札図書等を確認いただきたい。

#### <車両調達のスケジュールについて>

Q. 車両調達スケジュールにおいて、入札後のキックオフ・ミーティングは車両納入のどれくらい前を想定しているか。

➤ 現時点でのイメージでは、キックオフ・ミーティングから納品までの期間は 2 年～ 3 年程度と想定している。

Q. 入札の流れにおいて、5 か月目の書類提出とは技術提案書のみ提出を意味し、金額の提出とは 6 か月目の入札書提出のことを指すという理解でいいか。

➤ 質問の主旨のとおり。

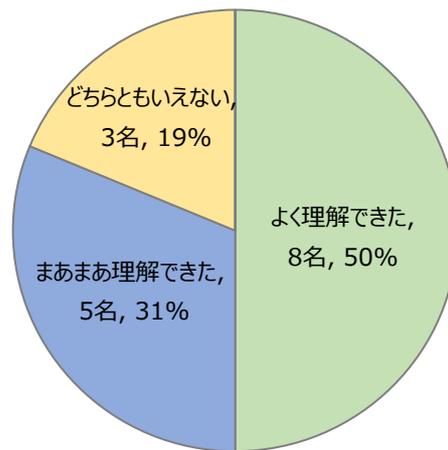
Q. 意見招請・入札公告の具体的時期が知りたい。

➤ 今年度の第 3 四半期に入札公告を予定している。

## 7. 開催後のアンケート集計結果

開催後アンケートは 23 名のうち 16 名から回答あり。概要は以下のとおり。

- 全体的には、説明がわかりやすかったこと、素早く明確に質疑応答がなされたこと、遠隔地からの参加が容易であったことなどについて肯定的な意見があった。
- 説明会の参加理由は、主に「応札を検討しているため」「新しい調達方針を理解するため」というものであり、日本企業の複数社が応札に関心を占めていることがわかった。
- オンライン説明会の理解度に関して、半数以上の企業から「よく理解できた」との回答をいただいた。



- アンケートに回答した全ての方が札幌圏通勤形交流電車の次期調達に「関心がある」と回答している。
- プレゼン資料の配布を求めると回答いただいた方には、後日資料配布を行った。

以上